

令和8年3月2日

世田谷区立玉川中学校  
校長 松永 かおり 様

世田谷区立玉川中学校  
学校関係者評価委員会

令和7年度学校関係者評価委員会 報告書

1. 教育目標

玉川中学校では、自他の権利や幸せ（ウェルビーイング）を尊重する生徒の育成を目指して、以下の4点を教育目標と定めている。

- (1) 自ら探求しお互いに学びあう生徒
- (2) 学んだ知識を活用・発揮できる生徒
- (3) 自己と社会全体の幸せ（ウェルビーイング）の実現のために（自ら考え判断し）行動できる生徒
- (4) 心身ともに健やかでたくましい生徒

2. 重点目標

教育目標を達成するために、令和7年度教育課程で以下の項目を重点目標に掲げている。

- (1) 自ら探求しお互いに学びあう生徒を育むために
- (2) 学んだ知識を活用・発揮できる生徒を育むために
- (3) 自己と社会全体の幸せ（ウェルビーイング）の実現のために（自ら考え判断し）行動できる生徒を育むために
- (4) 心身ともに健やかでたくましい生徒を育むために

**【特別支援学級】**

- (1) 自ら考え判断し行動できる能力を向上させるために

(2) 情緒の安定とコミュニケーション能力の向上を図るために

(3) 社会適用能力を高めるために

(4) 心身ともに健やかでたくましい生徒を育むために

### 3. 成果と課題

当評価委員会では、生徒、保護者、地域の各「アンケートの回答分布と平均」、学校の「調査結果を受けての分析」、ヒアリング結果等を総合的に考察し、「2. 重点目標」の項目を中心に以下のとおり成果と課題を確認した。

なお、学校関係者評価アンケートの集計結果の分析に際しては、コロナ禍における学校の運営状況の大きな変化、WEBによるアンケートへの変更に伴う保護者アンケートの回収率の減少を考慮して検討した。

#### (1) 「自ら探求しお互いに学びあう生徒を育むために」に関する成果と課題

重点目標では、課題解決的な学習の展開、個々の教育的ニーズに応じた個別最適化した指導方法の工夫・改善、主体的に判断する力の育成、ICT活用による指導の効率化、デジタルシチズンシップを身に付けさせるとしていた。今年度は、一人1台のタブレット型情報端末（以下「タブレット」という。）をフル活用できるように、生徒が自ら問いを見だし、問題を解決し、他者と協働しながら学びを深める活動やプログラミング教育、学期ごとのネットリテラシーに関する講座の開催を行うとともに、校内研修と学び舎の研究テーマとして「ICTの利活用」に取り組んでいた。

アンケートでは、先生は、映像やタブレットなどのICTを利用し、分かりやすい授業をしているについて生徒の肯定的評価が7ポイント程度上昇していた昨年度に比べて微減にとどまっており、取り組みの成果として現れていることが伺える。引き続き、教員全体でさらなる探求的な学びの向上を図ってほしい。

#### (2) 「学んだ知識を活用・発揮できる生徒を育むために」に関する成果と課題

重点目標では、言葉に対する関心や理解を深める「ことばの力」育成の充実、日本文化を理解し大切にする生徒を育成するための教科「日本語」授業の充実、「主体的・対話的で深い学び」実現に向けた学習活動の計画的な取り組みを行うとしていた。今年度は、「ことばの力」育成に向けて、ICT機器を活用したスピーチ等の表現活動、朝読書等の読書活動を行ったほか、教科「日本語」授業の充実に向けて、日本文化や伝統に対する理解を深める取り組み、外部講師による体験学習、研修を実施して指導体制の充実等が行われていた。さらに、これらの取り組みを通じて、生徒の考える力、自分を表現する力、コミュニケーション能力が育成されることを期待する。

#### (3) 「自己と社会全体の幸せ（ウェルビーイング）の実現のために（自ら考え判断し）行

動できる生徒を育むために」に関する成果と課題

重点目標では、①多様性を理解し尊重する豊かな心、自他の生命を大切に作る心を育成するため、人権尊重の精神に基づく人権教育と道徳教育の充実を図っていた。

今年度は、インクルーシブ教育の推進として、多様な個性を認め合い、尊重し合う姿勢の育成に向けて、不登校生徒に対しては、学習機会を保障するために、オンラインを活用した授業、eラーニング等の支援が行われ、特別な配慮を必要とする生徒に対しては、通常学級、特別支援教室の教員、特別支援教室支援員等の連携、校内特別委員会における情報共有、個の生徒への配慮の協議等が行われていた。また、インクルーシブの視点から道徳授業地区公開講座「『ちがいは『まちがひ』じゃない。～たのしく生きるための、ちがいと向き合い方～」の講演会等を実施していた。

アンケートでは、今年度初めて実施した項目の多様性を理解しお互いに協力して生活しているについて生徒の肯定的評価が87.6%となっていた。引き続き、全教育活動を通じてインクルーシブ教育の推進を図っていただきたい。

次に、②キャリア・未来デザイン教育の推進に向けて、キャリアパスポートを活用して望ましい勤労観・職業観を育てるとしていた。今年度は、生徒一人ひとりの適正・能力を把握し十分な情報提供を行い生徒にとって相応しい進路を歩めるような相談に努めた他、多様な進路等の説明会、職場体験（2年生）、都立高校出張授業（3年生）、起業家教育プログラム（3年生）等を実施していた。

アンケートでは、生徒のキャリア教育に関しての肯定的評価について、目標について考えて行動しているが19ポイント程度、学校による情報提供が8ポイント程度などすべて上昇していた。引き続き、勤労観・職業観の育成に注力してほしい。

次に、③他者を思いやる心を育むことで、いじめの予防につなげるとしていた。今年度は、いじめの未然防止や早期発見の対応、いじめ防止のための情報交換、研修の有効活用を確実に行うとし、「いじめの傍観者をつくらない」ための授業、いじめ防止プログラム（1年生）、ネットリテラシー醸成講座（1年生）、いじめに関する講師を招いた授業（1年生）を実施していた。特にスマホ・SNSの使い方に関因するトラブル防止に向けた取り組みを重ねて実施するとともに保護者に対する啓発も併せて実施していた。

アンケートでは、先生が指導した学校での過ごし方やルールについて理解できるについて生徒の肯定的評価が13ポイント程度上昇していた昨年度に比べて微減となっており、生徒の相談しやすさについて生徒の肯定的評価が10ポイント程度上昇していた昨年度に引き続き6ポイント程度上昇していた。引き続き、問題行動の未然防止に向けた取り組みに努め、課題が生じた際は生徒に寄り添った指導を徹底させてほしい。

その他、重点目標として、国際人としての視野を広めるための国際理解教育による国際社会に貢献する生徒の育成、学校行事、生徒会活動、ボランティア活動等で責任を果たすことでの自己有用感の育成、学校と家庭・地域社会との連携による「地域とともに子どもを育てる教育」の推進等を行うとしていた。今年度は、「TOKYO

GLOBAL GATEWAY」での英語校外学習（2年生）の実施、近隣大学との連携、生徒会・ボランティア活動への参加促進、放課後の居場所として「校内カフェ」等の取り組みが行われていた。

アンケートでは、学校行事に関する生徒の肯定的評価が4ポイント程度上昇していた昨年度に比べて微増となっていた。しかし、ボランティアに関して積極的に取り組んでいるについての生徒の肯定的評価が昨年度に比べて13ポイント程度上昇していたが、昨年度、一昨年度と大幅に減少していたので、引き続き、状況の注視は必要と考える。

#### （4）「心身ともに健やかでたくましい生徒を育むために」に関する成果と課題

重点目標では、事故防止の徹底と安全な教育環境の整備・保全および食育指導の推進による健康・安全指導の充実等を行うとしていた。今年度は、「防災ノート『東京防災』」の活用、自分で判断し行動できることを目指した避難訓練の実施、「人と防災未来センター」の見学（3年生）、外部講師による「命の授業」として「性教育」（2年生）、「がん講座」（2年生）や赤ちゃん体験（3年生）など自他の生命を尊重する指導等が行われていた。加えて、生徒のメンタルヘルス向上の成果が見込まれる居心地向上プロジェクトに取り組み、生徒の声を取り入れて夏服にネイビーのポロシャツを導入していた。

アンケートでは、体力の向上や健康な生活に取り組んでいる、規則正しい生活（食事、睡眠等）を送っているについての生徒の肯定的評価がそれぞれ5ポイント、6ポイント程度上昇していた。引き続き、「健やかな身体」の育成に取り組んでほしい。

また、教育環境の整備に関しては、これまでも暑熱対策として体育館天井の遮熱シート設置等を行っているが、生徒の安全面、健康面を最優先して教育委員会と連携しながら的確に進めていただきたい。

#### （5）特別支援級の重点目標に関する成果と課題

令和7年4月から開設された特別支援学級（ひまわり学級）の重点目標では、①自ら考え判断し行動できる能力の向上に向けて、個々の教育的ニーズに応じた指導方法の工夫・改善を図る、②情緒の安定とコミュニケーション能力の向上に向けて、校内で温かく穏やかな声掛けや会話が交わされる豊かな言語環境を創出し、自分の状態や気持ち伝えたり助けを求めたりすることができるように国語や教科「日本語」の授業を充実させ語彙を増やす、③社会適応能力を高めるために、学級活動等の特別活動を充実させて仲間と共に生きることの喜びや自己有用感・自己効力感を高めるなどとしていた。今年度は、校内研修会として「自閉症・情緒障害特別支援学級の生徒が共に学ぶために」を実施していた。

「ひまわり学級」は、開設初年度であったことから、重点目標に掲げた項目を中心に適切な状況把握による十分な検証を行い次年度へ繋げてほしい。

#### 4. 学校関係者評価委員会の総合所見

##### (1) 学校運営全般

玉川中学校では、世田谷区教育振興基本計画のもと工夫を重ねながら学校運営を行ってきており、アンケート結果等からも、今年度の取り組みが生徒にとって一定程度の成果が現れていると見受けられた。昨年度の報告書では、「ICTを活用した学びと教職員の子どもたちに向き合う時間の拡充の円滑な推進」に取り組むことを第1の課題とさせていただいた。今年度の振り返りでは、ICTを活用した学びに関して、取り組みが着実に推進されており、次の段階に向けたAIの活用などの研究も進められていた。引き続き、AIの活用などさらなる推進を図ってほしい。そして、教職員の子どもたちに向き合う時間の拡充に関して、部活動地域移行モデル校の取り組み等が行われていたが、地域移行を進める世田谷区スポーツ振興財団との連携強化など検証の必要性がある事例も確認された。一般的に教職員の働き方改革と教育活動の充実とは相反するものと捉えがちであるが、子どもたちに向き合う時間の拡充の視点から積極的に推進されることを願っている。

一方、今年度のアンケートでは、わかりやすい授業、生活指導、学校行事の捉え方、キャリア教育、教職員等の項目に関して、生徒と保護者の肯定的評価に大きな乖離が生じていた。生徒が昨年度と比較して上昇しているにも関わらず、保護者が10ポイント以上減少している項目も見られた。これらは、行事が平日開催となった影響もあるが、学校での生徒の状況が的確に保護者に伝わっていないことが大きく影響していると考えられる。また、学校からの情報提供、学校と家庭の連携、学校と地域の連携等について保護者の肯定的評価が10ポイント以上減少している項目も見られた。道徳公開講座等の行事で保護者周知が遅かったという状況も見られ、適切な情報提供に改善の余地があると考えられる。

情報提供に関しては、保護者と信頼関係を構築する基本となり極めて重要である。学校での取り組みや活動状況等を積極的に発信し、教育活動への理解を推進してほしい。

##### (2) 令和8年度に向けた課題

令和7年度の状況を鑑みて、来年度においては、「保護者に対する情報提供内容および手法の充実」を第1の課題として提言したい。来年度は、多くの保護者に満足される情報提供が行われ、これまで以上の信頼関係の構築を目指してほしい。課題の取り組みにあたっては、本校教職員全体で取り組み、教員間の連携を図りながら円滑に推進することを期待している。

#### 5. 終わりに

世田谷区における学校評価のねらいの一つに「学校の改善」がある。それは、各学校が、自ら教育活動その他の学校運営について、目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取り組みの適切さ等について評価することにより、学校として組

織的・継続的な改善を図ることである。当評価委員会は、今回の報告書がより質の高い学校教育の実現のための一助となるとともに、来年度の教育活動が生徒一人ひとりにとってより実のある教育活動となり、子どもたちが将来に向けて未知の世界を切り拓く力を育んでいける教育となるように、委員一同、心から期待している。

令和7年度世田谷区立玉川中学校

学校関係者評価委員会

委員長 添田 茂

委員 池光 薫、 伊澤 恵味子

齊藤 由美、 澁澤 千春

辰巳 雄一